

フーゴー・ヴォルフの初期歌曲群における様式的特徴¹⁾

梅林 郁子

1. 研究目的

フーゴー・ヴォルフ(Wolf, Hugo 1860-1903)は、ウィーンの作曲者であり、作曲を行った23年間で、310曲にのぼるピアノ・パートを伴う歌曲を残している。特に1888-91年の4年間には、200曲近い歌曲が集中的に生み出され、歌曲集としてまとめられた。中でも《エドゥアルト・メーリケの詩による一つの歌唱声部とピアノのための歌曲集 *Gedichte von Eduard Mörike für eine Singstimme und Klavier*》(以下《メーリケ歌曲集》と略記)は、この4年間の作曲活動の中で、最初の頂点に立つ作品と言えよう。一方、この時期に先立つ、1875年からの約13年間にも、89曲のピアノ・パートを持つ歌曲が作られたのである。

そこで本研究では、まず、1888年からの集中的な作曲活動の幕開けとなった、《メーリケ歌曲集》における音楽的特徴を明らかにする。そして、この音楽的特徴が、1875-88年までに作曲された歌曲(以下「初期歌曲群」と略記)全89曲と関連を持つものであるのか、分析的な考察を行う。更に、初期歌曲群の音楽的特徴の在り方についても、具体的に検証したい。

2. 対象曲について

ヴォルフの作品表は、既にデイヴィッド・オッセンコップ(Ossenkop 1988:8-81)や、エリック・サムズ(Sams 1980:492-498)の著作に掲載されているが、どちらもその作品を生前出版、死後出版に区別している。また、歌曲に関しては、両者とも、生前出版に関しては歌曲集別、死後

出版に関しては完成作品と未完作品を混ぜた形で、作成されている。

本稿では、初期歌曲群全体を検討するため、出版の生前、死後を問わず、出版譜のある完成作品を、作曲年月日順に配列し、研究対象とする。そこで、次の【表1】に初期歌曲群全89曲の一覧を示す。

【表1】初期歌曲群全89曲²⁾

番号	原 題	邦 題	作曲年月日
1	Nacht und Grab	夜と墓	1875. 9
2	Schmucht	憧れ	9
3	Der Fischer	漁夫	9
4	Auf dem See	湖上にて	9
5	Frühlingsgrüße	春の挨拶	1876. 1. 3
6	Meeresstille	海の静けさ	1初めか半ば
7	Liebesfrühling	恋の目覚め	1. 29
8	Erster Verlust	最初の喪失	1. 30
9	Abendglöcklein	夕べの鐘	3. 18と4. 24
10	Der goldene Morgen	輝かしい朝	5. 1
11	Parlenfischer	真珠採り	5. 3
12	Stille Sicherheit	静かな確かさ	未
13	Scheideblick	別れの眼差し	未
14	Ein Grab	ある墓	12. 8と10
15	Mädchen mit dem roten Mündchen	赤い唇の乙女	12. 17
16	Du bist wie eine Blume	君は花のよう	12. 18
17	Wenn ich in deine Augen seh	君の瞳を見つめると	12. 21
18	Bescheidene Liebe	つつましい恋	未か77年初め
19	Abendbilder	夕暮れの情景	1877. 1. 4-2. 24
20	Ständchen	セレナード	3. 5-4. 12
21	Andenken	追憶	4. 23-25
22	An	・・・に	4. 27-5. 8
23	Morgentau	朝露	6. 6-19
24	Wanderlied	さすらいの歌	6. 14-15
25	Der Schwalben Heimkehr	つばめの帰還	8-12. 29
26	Traurige Wege	寂しい道	1878. 1. 22-25
27	So wahr die Sonne scheint	太陽が輝いているかぎり	2. 8
28	Nächtliche Wanderung	夜ごとのさすらい	2. 19-21
29	Auf der Wanderschaft (第一稿)	旅にて (第一稿)	3. 20
30	Auf der Wanderschaft (第二稿)	旅にて (第二稿)	3. 23
31	Die Spinnerin	紡ぎ女	4. 5-12
32	Das Kind am Brunnen	泉のほとりの子供	4. 16-27
33	Das Vöglein	小鳥	5. 2
34	Knabentod	少年の死	5. 3-6
35	Sie haben heut' Abend Gesellschaft	彼らは今日、夕べに集う	5. 18-25
36	Über Nacht	夜の間に	5. 23-24
37	Ich stand in dunkeln Träumen	私はぼんやりと夢見心地であった	5. 26-29
38	Das ist ein Brausen und Heulen	吹きすさぶ嵐	5. 31
39	Wo ich bin, mich rings umdunkelt	暗闇に囲まれ	6. 3-4
40	Aus meinen grossen Schmerzen	わたしの大きな苦しみから	6. 5

41	Mir träumte von einem Königskind	私は王子の夢を見た	6. 16
42	Mein Liebchen, wir sassen beisammen	かわいい人、一緒に座っていたね	6. 17と21
43	Es blasen die blauen Husaren	青服の軽騎兵の吹奏	6. 22
44	Liebesfrühling	愛の春	8. 9
45	Auf der Wanderung	旅先で	8. 10
46	Ja, die Schönst! ich sagt es offen	そうなのだ、美しい人!	8. 11
		僕ははっきりとそう言った	
47	Gretchen vor dem Andachtsbild der Mater Dolorosa	悲しみの聖母の前にたたずむ グレートヒェン	8. 22-9. 9
48	Nach dem Abschiede	別れたあと	8. 31-9. 1
49	Es war ein alter König	かつて老いた王がいた	10. 4
50	Mit schwarzen Segeln	黒い帆をかけて	10. 6
51	Spätherbstnebel	晩秋の霧	10. 7
52	Ernst ist der Frühling	春たけなわ	10. 13-17
53	Herbstentschluss	秋の決意	1879. 7. 8
54	Frage nicht	問うなかれ	7. 21
55	Herbst	秋	7. 24
56	Erwartung	期待	1880. 1. 26
57	Die Nacht	夜	2. 3
58	Wie des Mondes Abbild zittert	月影が覚えているように	2. 13
59	Nachruf	追悼	6. 7
60	Sterne mit den goldnen Fußchen	金色に輝く星	11. 26
61	Suschens Vogel	ズースヒェンの鳥	12. 24
62	In der Fremde I	異国で I	1881. 1. 27
63	Mausfallen-Sprüchlein	ねずみ捕りの呪文	1882. 6. 18
64	Wiegenlied im Sommer	夏の子守歌	12. 17
65	Wiegenlied im Winter	冬の子守歌	12. 20
66	Wohin mit der Freud?	喜びはいずこへ?	12. 31
67	Rückkehr	家路	1883. 1. 12
68	Ständchen	セレナード	1. 19
69	Nachtgruss	夜の挨拶	1. 24
70	In der Fremde VI	異国で VI	1. 30
71	Flühlingsglocken	春の釣鐘草	2. 19
72	Liebesbotschaft	愛の使い	3. 18
73	Liebchen, wo bist du	かわいい人、どこにいるの	4. 12
74	In der Fremde II (第二稿)	異国にて II (第二稿)	5. 3
75	"Zur Ruh', Zur Ruh'"	安らえよ、安らえよ	6. 16
76	Die Tochter der Heide	荒野の乙女	1884. 7. 11
77	Der König bei der Krönung	戴冠式に臨む王	1886. 3. 13
78	Der Soldat II	兵士 II	12. 14
79	Biterolf	ビーテロルフ	12. 26
80	Wächterlied auf der Wartburg	ヴァルトブルク城の見張りの歌	1887. 1. 24
81	Wanderers Nachtlid	さすらい人の夜の歌	1. 30
82	Beherzigung	銘記	3. 1
83	Die Kleine	かわいい人	3. 8
84	Der Soldat I	兵士 I	3. 7
85	Die Zigeunerin	ジプシーの少女	3. 15
86	Waldmädchen	森の乙女	4. 20
87	Nachtzauber	夜の魔法	5. 24
88	Gesellenlied	職人の歌	1888. 1. 24
89	Wo wird einst	旅に疲れ果てた者が至りつく	1. 24

本稿では歌曲集としてのまとまりではなく、各曲の作曲年代に注目するが、初期歌曲群の作品の内、生前出版されている曲に関しては、参考として、表中の番号に斜体で網かけをした。尚、1885年には、ピアノ・パートを伴う歌曲は作曲されていない。

次の【表2】は、《メーリケ歌曲集》の各曲を、【表1】同様、作曲年月日順に並べたものである。

【表2】《メーリケ歌曲集》全53曲

番号	曲順	原 題	邦 題	作曲年月日
90	M 5	Der Tambour	少年鼓手	1888. 2. 16
91	M 2	Der Knabe und das Immelein	少年と蜜蜂	2. 22
92	M 3	Bin Stündlein wohl vor Tag	夜明け前の楽しいひととき	2. 22
93	M 4	Jägerlied	狩人の歌	2. 22
94	M 40	Der Jäger	狩人	2. 23
95	M 9	Nimmersatte Liebe	飽くことを知らぬ恋	2. 24
96	M 50	Auftrag	依頼	2. 24
97	M 49	Zur Warnung	忠告いたそう	2. 25
98	M 38	Lied vom Winde	風の歌	2. 29
99	M 51	Bei einer Trauung	ある結婚式に	3. 1
100	M 1	Der Genesene an die Hoffnung	癒えた者が希望に寄する歌	3. 6
101	M 18	Zitronenfalter im April	四月の黄蝶	3. 6
102	M 16	Elfenlied	妖精の歌	3. 7
103	M 17	Der Gärtner	庭師	3. 7
104	M 53	Abschied	あばよ	3. 8
105	M 39	Denk' es, o Seele!	考えても見よ、ああ心よ	3. 10
106	M 15	Auf einer Wanderung	旅先で	3. 11
107	M 12	Verborgenheit	隠生	3. 13
108	M 28	Gebet	祈り	3. 13
109	M 43	Lied eines Verliebten	恋する男の歌	3. 14
110	M 52	Selbstgeständnis	問わず語り	3. 17
111	M 42	Erstes Liebeslied eines Mädchens	乙女の初恋の歌	3. 20
112	M 10	Fußreise	散歩	3. 21
113	M 8	Begegnung	出会い	3. 22
114	M 41	Rat einer Alten	老女の忠告	3. 22
115	M 7	Das verlassene Mägdlein	捨てられた娘	3. 24
116	M 48	Strochenbotschaft	こうのとりの使い	3. 27
117	M 35	Frage und Antwort	問答	3. 29
118	M 36	Lebe Wohl	さようなら	3. 31
119	M 37	Heimweh	郷愁	4. 1
120	M 22	Seufzer	ため息	4. 12
121	M 23	Auf ein altes Bild	古い絵を見て	4. 14
122	M 11	An eine Aolsharfe	エオリアン・ハープに寄せて	4. 15
123	M 19	Um Mitternacht	真夜中に	4. 20
124	M 20	Auf eine Christblume I	クリスマス・ローズに I	4. 21
125	M 33	Peregrina I	ペレグリーナ I	4. 28
126	M 34	Peregrina II	ペレグリーナ II	4. 30
127	M 14	Agnes	アグネス	5. 3
128	M 6	Er ist's	時は春	5. 5

129	M 24	In der Frühe	明け方に	5. 5
130	M 13	Im Frühling	春に	5. 8
131	M 45	Nixe Biusefuß	葦の根の精	5. 13
132	M 47	Die Geister am Mummelsee	ムンメル湖の精霊たち	5. 18
(この間、《アイヒェンドルフ歌曲集》の内、13曲が作曲された)				
146	M 29	An den Schlaf	眠りに寄せて	10. 4
147	M 30	Neue Liebe	新しき愛	10. 4
148	M 27	Zum neuen Jahr	新年を迎えて	10. 5
149	M 25	Schlafendes Jesuskind	眠れる幼子イエス	10. 6
150	M 31	Wo find' ich Trost	我が慰めはいずこに	10. 6
151	M 26	Karwoche	聖週間	10. 8
152	M 46	Gesang Weyla's	ヴァイラの歌	10. 9
153	M 44	Der Feuerreiter	火の騎士	10. 10
154	M 32	An die Geliebte	愛する人に	10. 11
(この間、《ゲーテ歌曲集》の内、12曲が作曲された)				
168	M 21	Auf eine Christblume I	クリスマス・ローズに II	11. 26

《メーリケ歌曲集》は、南ドイツの詩人エドゥアルト・メーリケ(Mörike, Eduard 1804-75)の詩に付曲された、全53曲の歌曲集である。表の番号欄は、初期歌曲群からの通し番号を、曲順欄は、参考として《メーリケ歌曲集》内における順番を表した。また、この歌曲集は一挙に書き上げられたものではなく、間に《アイヒェンドルフ歌曲集》中の13曲、そして、《ゲーテ歌曲集》内の12曲が作曲されている。

この《メーリケ歌曲集》の音楽的特徴が、初期歌曲群においてどのように見出されるのか、次項から、分析を通じて検討を行う。

3. 分析的考察

本研究の考察に先立ち、《メーリケ歌曲集》並びに初期歌曲群の音楽的諸要素を検討した。それにより、初期歌曲群における《メーリケ歌曲集》的な特徴を考察するために、歌唱旋律の動き、調性構造、ピアノ・パートのダイナミクスの三要素が、各々その特徴において顕著なものであり、本稿の目的を明らかにする上で相応しいと、考えられる。以上から、本項ではこの三要素に絞って、分析考察を行うこととする。

3.1 歌唱旋律

まず、《メーリケ歌曲集》における歌唱旋律の形態を考察するため、詩行一行分の歌唱旋律を基本として、その動きを観察した結果、《メーリケ歌曲集》では、特徴的な型が、次の3つに分類される。

- a. 巡回型の旋律—詩行1行分の旋律の開始音と終止音が、完全1度から増2度の関係にあり、それをつなぐ音がS字を描く

【譜例1】第92番「夜明け前の楽しいひととき」 mm. 4-6³⁾



- b. 同音反復—連続して同音が3音以上、続く形

【譜例2】第94番「狩人」 mm. 2-4



- c. 旋律の反復（元の詩に無い部分に対する旋律の反復は除外）

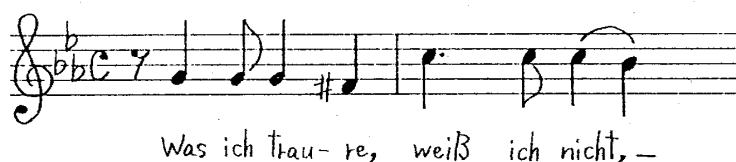
- (1) 同じ旋律が詩行1行分において、2度繰り返される形

【譜例3】第121番「古い絵を見て」 mm. 4-6



- (2) 同じ形の旋律が音域を変えて、詩行1行分において、2度繰り返される形

【譜例4】第107番「陰生」 mm. 11-12



- (3) (1)と(2)の形が、連続した複数の詩行において、観察される形

この、a～cの共通点は、狭い音域で音が動くこと、または同じ音域

内で旋律が繰り返されることにある。つまり、《メーリケ歌曲集》では、旋律がある決まった音域内で動くことが、特徴と言えよう。

以上の3パターンの歌唱旋律が、《メーリケ歌曲集》の中で、観察される頻度を表すものが、次の【表3】である。

【表3】 《メーリケ歌曲集》における特徴的な歌唱旋律の割合

分類 番号	a	b	c(1)	c(2)	c(3)	合計
90	0	19.04	0	0	9.5a	28.54
91	10.00	20.00	3.33	0	0	30.33
92	60.00	13.33	0	0	0	73.33
93	0	25.0	0	0	0	25.0
☆ 94	5.55	33.33	0	0	5.55b	38.88
95	5.26	31.57	15.78	0	0	52.61
96	0	79.16	0	0	0	79.16
☆ 97	0	42.10	0	0	26.31a	57.89
☆ 98	0	30.55	8.33	5.55	19.44a+b	58.33
99	0	50.0	0	0	0	50.0
100	18.75	18.75	6.25	0	0	43.75
101	10.0	50.0	0	0	0	60.0
☆ 102	0	37.50	8.33	0	41.66a+b	69.56
103	0	31.25	6.25	0	0	37.5
104	0	16.0	0	0	8.0 a	24.0
105	0	50.0	0	0	0	50.0
106	5.26	42.10	10.52	0	0	57.88
107	12.50	31.25	0	6.25	0	50.0
108	30.0	10.0	0	0	20.0 a	60.0
☆ 109	6.66	20.0	6.66	0	13.33b	33.33
110	0	0	11.11	11.11	0	22.22
111	0	25.0	4.16	0	8.33a	37.49
112	0	37.50	4.16	0	8.33a	49.99
113	0	30.0	30.0	0	0	60.0
114	3.03	6.06	0	0	24.24a	33.33
115	0	37.50	0	0	0	37.50
☆ 116	0	17.24	48.27	3.44	20.68a+b	75.86
☆ 117	0	8.33	0	0	16.66b	16.66
118	0	12.5	0	0	0	12.50
119	0	6.66	0	0	26.66a+b	33.32
120	0	0	0	0	50.0 a	50.0
121	0	0	33.33	16.66	0	49.99
122	4.0	28.0	0	0	0	32.0
123	6.25	37.50	0	0	25.0 a	68.75
124	3.57	59.25	0	0	0	62.82
☆ 125	12.50	50.0	0	0	0	50.0
126	0	41.66	0	0	0	41.66
☆ 127	20.83	33.33	0	0	58.33b	91.66
128	0	22.22	0	0	0	22.22
129	0	20.0	10.0	0	0	30.0
130	0	32.0	8.0	0	8.0 a	48.0
☆ 131	0	11.53	15.38	7.69	30.76a	57.69
☆ 132	0	45.94	5.40	2.70	0	45.94
146	0	75.0	0	0	0	75.0
147	0	16.66	0	8.33	0	24.99
148	11.11	27.77	0	0	22.22a	61.10
149	0	11.11	0	0	0	11.11
150	0	45.0	20.0	0	0	65.0
151	0	55.0	10.0	0	0	65.0
152	0	50.0	0	0	0	50.0
153	0	42.0	0	0	20.0 a	62.0
154	0	64.28	0	0	0	64.28
168	0	12.50	0	0	0	12.50
平均値	4.25	30.42	5.00	1.16	8.73	47.18

これは、各曲に観察される歌唱旋律の割合を型別に表示したもので、表中の歌唱旋律の分類は、前述の a～c に基づく。各曲とも特徴的な歌唱旋律が含まれる詩行数を全体の詩行数で割り、パーセンテージで、小数点以下第2位までを表示している。ただし、曲順の左側に星印があるものは、種類の異なる複数の特徴的な歌唱旋律が、1行に含まれることを表している。そのため、星印付きの曲の a～c までの合計と、合計欄の数値は一致しない。また、平均値の欄は、特徴的な歌唱旋律が用いられる割合の平均値を示している。この表から、《メーリケ歌曲集》においては、同音反復の使用頻度が高く、これら3つの型の歌唱旋律が、平均すると全体の半数弱の詩行に用いられていることが明らかである。

この【表3】と同様の分析を初期歌曲群についても行い、各年別に平均値を出したものが、【表4】である。

【表4】初期歌曲群における特徴的な歌唱旋律の年代別平均値⁴⁾

区分	年代 (曲数)	分類	a	b	c(1)	c(2)	c(3)	合計
第1期	1875 (4曲)		0	16.60	0	(6.25)	7.14	25.53
	1876 (14曲)		2.29	15.23	0	(5.63)	6.02	27.03
	1877 (7曲)		[3.57]	15.43	0	0	(12.87)	23.16
第2期	1878 (27曲)		2.26	[29.49]	1.43	[1.07]	(13.69)	[43.09]
	1879 (3曲)		0	[29.36]	2.38	0	0	31.74
第3期	1880 (6曲)		0	19.35	0	(2.90)	4.84	27.10
	1881 (1曲)		0	18.75	0	0	0	18.75
	1882 (4曲)		0	10.58	2.41	0	6.94	19.94
	1883 (9曲)		0.65	20.94	4.15	(2.47)	3.73	30.7
第4期	1884 (1曲)		[3.57]	(53.57)	0	0	(14.28)	(60.71)
	1886 (3曲)		0	(35.41)	0	(4.16)	(16.66)	39.58
	1887 (8曲)		1.04	18.38	3.85	(2.14)	(10.03)	33.72
	1888 (2曲)		0	23.21	(5.35)	(5.35)	0	33.92

この表では、《メーリケ歌曲集》の平均値を越えた値を丸（○）で、平均値に近い値を四角（□）で囲み、示した。

この表から、《メーリケ歌曲集》の分析結果に基づき、次のような傾向が見られる。まず、1875-76年では、c (2)型の旋律が多いが、77年までは、全体として、特徴的な歌唱旋律の使用はさほど多くない。それに対して、1878-79年は、《メーリケ歌曲集》の歌唱旋律において最大の特徴である同音反復が、歌曲集の分析結果とかなり近い値で現れている。また、合計値が30%を越えていることも、この時期の特徴である。その後、1880-83年までは、c (2)以外の旋律の使用頻度が低いため、合計値も低くなっている。更に、1884-88年では、比較的満遍なく《メーリケ歌曲集》に近い数値、またはそれ以上に、特徴的な歌唱旋律が使われているため、合計値も比較的高くなっている。

以上の特徴の相違点から、初期歌曲群の歌唱旋律の様式は、四期に分類することが可能であり、1875-77年の特徴的な歌唱旋律が全体的に少ない時期を第1期、78-79年の多い時期を第2期、80-83年の再び減少した時期を第3期、そして全体として特徴的な歌唱旋律が用いられるようになった84-88年までを第4期と言えよう。

3.2 調性構造

《メーリケ歌曲集》の調構造を分析した結果、特徴的と考えられる調性構造は、次のa bの2種類にまとめられる。

a. 1つの音を中心に、その近辺の音を主音とした調に転調する手法

【図1】第102番「妖精の歌」の調性構造モデル⁵⁾

調性記号：	ovii	—	i	—	iii	—	+ii	—	vi	—	i
調性：	Es	—	F	—	a	—	g	—	c	—	F

【図1】では、準7度調の Es-dur から、主調の F-dur、3度調の a-moll、プラス2度調の g-moll、変位7度調の e-moll を通って、主調に戻っている。このような転調は、一般的に主調を中心に行われることが多いため、7度調、2度調、3度調の使用が多くなるのである。

b. 2つの調性が交互に現れる転調手法（拡大された調関係を含む）

【図2】第91番「少年と蜜蜂」の調性構造モデル mm. 20-48

調性記号	i	—	iii	—	i	—	°iii	—	+iii	—	i	—	iii	—	i
調性	G	—	h	—	G	—	B	—	H	—	G	—	h	—	G

【図2】では、1度調と3度調が、交互に現れている。ただし、3度調は、拡大された調関係を含み、主調 G-dur からみた、3度調の h-moll、準3度調の B-dur、プラス3度調の H-dur の3種が、用いられる。

この2つの転調手法が、《メーリケ歌曲集》のどの曲に用いられているかについて【表5】に示すこととする。

【表5】《メーリケ歌曲集》における特徴的な調性構造を含む曲⁶⁾

分類 曲数	a	b	1度調
全53曲	34曲(90, 91, 92, 94, 95, 96, 98, 100, 102, 104, 105, 106, 108, 109, 113, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 122, 128, 130, 131, 132, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 153, 154)	10曲(91, 96, 99, 101, 109, 112, 123, 126, 127, 153)	

この表の調構造の分類は前述の a、b に準じている。a 型、つまり、近辺の音を主音とする転調は、全体の60%強である34曲に、調が交互に変わる b 型は、全体の20%弱の10曲に観察された。つまり、このような転調手法は、両方を合わせると、80%強の作品に存在するのである。

同様に、初期歌曲群の観察結果を、次の【表6】に示す。

【表6】初期歌曲群における特徴的な調性構造を含む曲

区分	年代 (曲数)	分類	a	b	1 度 調
第1期	1875 (4曲)				2曲(2, 3)
	1876 (14曲)	1曲(6)			7曲(8, 10, 11, 14, 15, 16, 18)
	1877 (7曲)	4曲(19, 21, 22, 23)			1曲(23)
第2期	1878 (27曲)	9曲(26, 28, 32, 34, 35, 41, 46)		2曲(31, 45)	2曲(27, 50)
	1879 (3曲)	1曲(53)		1曲(55)	1曲(54)
第3期	1880 (6曲)	2曲(58, 60)		2曲(59, 61)	
	1881 (1曲)	1曲(62)			
	1882 (4曲)	2曲(63, 65)		2曲(64, 66)	
	1883 (9曲)	3曲(70, 73, 74)		2曲(71, 74)	
第4期	1884 (1曲)	1曲(76)			
	1886 (3曲)	1曲(77)			
	1887 (8曲)	4曲(82, 83, 85, 86)			
	1888 (2曲)	1曲(88, 89)			

この表から、まず、1875-77年は、a型の調構造が徐々に用いられるようになったと言えよう。また、同時に《メーリケ歌曲集》では観察されなかった、曲の最初から最後まで1度調という、習作的な形も現れている。次に、1878-79年では、一曲を通じて1度調という形が減り、代わりにb型が見られるようになった。その後、1880-83年では、一曲を通して1度調の形は全くなり、a型とb型のみとなる。更に、1884-88年では、b型が使用されなくなり、特徴的な調構造としては、75年からコンスタントに用いられてきたa型のみとなるのである。

この考察から、調構造においても、創作傾向による分類が可能である。つまり、第1期は1875-77年、第2期は78-79年、第3期を80-83年、第4期を84-88年までと見ることができる。

3.3 ピアノ・パートのダイナミクス

本項では、歌曲のピアノ・パートに見られる強弱記号、及び記号の用いられている小節数を分析対象とした。【表7】は、《メーリケ歌曲集》のピアノ・パートにおいて記号の指示がある小節数の長さを観察し、曲ごとに、表示するものである。

【表7】《メーリケ歌曲集》のピアノ・パートに観察されるダイナミクス⁷⁾

記号 番号	pppp	ppp	pp	p	mp	mf	f	ff	fff
90	○	○	◎	●			○	○	
91		○	◎	●		○	○	○	
92		○	◎	●			○	○	
93			◎	○			◎	○	
94		○	●	◎		○	○	○	○
95		●					○	○	
96			○	◎		○	◎		
97		○	○	●		○	◎	○	
98		●	○	◎		○	○	○	
99		◎	◎	○			○		
100		○	◎	●			○	○	
101		●	◎	○					
102		●	◎	○		○	○		
103		○	◎	○		●	○		
104			◎	○		○	○	●	○
105		○	◎	●			○	○	
106			◎	●		○	○	○	
107			◎	●		○	○	○	
108		○	◎	●		○	○	○	
109			○	◎		○	●	○	
110				◎			●	○	
111			○	◎			●	○	○
112			○	◎		○	●		
113			●	◎			○		
114			◎	●		○	○		
115		●	◎	○			○		
116			●	◎		○	○	○	○
117			●	◎		○	○		
118			○	◎		○	○		
119		○	◎	●		○		●	
120			●	◎			○	○	
121			◎	○		●			
122	○	●	◎	○		○			
123		◎	●	○		○			
124	○	○	◎	●		○			
125			◎	●		○	○	○	
126		○	◎	●		○	○	○	
127			◎	●		○	○		
128		◎	○	○		○	●	○	○
129	○		◎	●		○	○		
130		○	◎	●		○	○	○	
131	○	○	◎	●		○	○	○	

132		○	◎	●		○	○	○	
146		○	◎	●		○	○		
147		○	●	◎		○	○	○	
148		○	○	◎		○	●	○	
149	○	◎	●			○			
150		○	○	◎		○	●	○	
151			◎	●					
152		●	◎	●					
153	○	○	◎	○		○	○	○	●
154		○	◎	●			○	○	
168		○	◎	●		○	○		

それぞれの曲で、最も長く用いられているダイナミクスの指示を二重丸（◎）、二番目を黒丸（●）、その他を白丸（○）で表している。尚、1曲に二重丸、または黒丸が2つあるものは、分析から、指示されている小節数の長さが、全く同じであることを示すものである。

この表から、《メーリケ歌曲集》において、中心となっているダイナミクスは、pp であることが読み取れる。また、第2位のものまで考慮にいれると、《メーリケ歌曲集》のダイナミクスは、pp から p まだが中心と捉えられる。また、f も、全体の5分の1程の曲において、比較的高い割合で用いられる一方、中間的なダイナミクスを表す mp は全く用いられず、mf も全体的には低めの使用である。全体としては、pppp から、fff までの、幅広い記号が用いられている。

またこの表から、ヴォルフは、mp を境に、弱と強の世界をはっきりと分けて考えていると推測できる。つまり、mp がなく、mf の使用も低いことから、弱から強、または強から弱に移る場合、中間的なダイナミクスを経ること無く、急激に変化するのである。これは《メーリケ歌曲集》のダイナミクス変化の特徴として、急激なクレッシェンド、またはディミヌエンドが用いられるためであろう。尚、また、ピアノ・パートに指示の無い曲は、《メーリケ歌曲集》には全く見られない。

初期歌曲群における同様の観察結果を示すものが【表8】である。

【表8】初期歌曲群のピアノ・パートに観察されるダイナミクス

区分	年代 (曲数)	記号 番号	pppp	ppp	pp	p	mp	mf	f	ff	fff
第 1 期	1875 (4曲)	1			●	◎			○		
		2									
		3			●	◎			○	○	
		4				◎					
	1876 (14曲)	5									
		6			◎	●			●		
		7									
		8									
		9		◎	●						
		10			◎						
		11		●		◎					
		12									
		13									
		14			◎				●	○	○
		15			○	◎			●		
		16			○	◎			●		
		17			○	◎			●		
		18			◎						
第 2 期	1877 (7曲)	19		●	◎	○		○	○	○	●
		20		○	●	◎		○	○	○	○
		21			●	◎		○	○	○	○
		22			○	◎		○	●	○	
		23		●	◎	○					
		24			○	◎		○	●	○	
		25		○	◎	●		○	○	○	
	1878 (27曲)	26			●	◎		○	○	○	
		27			○	○		◎	●		
		28			○	◎		○	●	○	
		29			◎	●		○	○		
		30			●	◎			○		
		31		○	●	◎		○	○	○	
		32		○	◎	●		○	○	○	○
		33			●	◎		○	○		
		34				○		○	●	◎	
		35			○	◎		○	●	○	○
		36			○	◎		○	●	○	○
		37			◎	●		○	○	○	
		38			◎	○		○	◎	○	
		39			○	◎		○	●	○	
		40			○	◎		○	●	○	
		41		○	◎	○		●	○		
		42		○	◎	●		○			
		43			○	●		○	◎	○	
		44			○	◎		○	○	●	
		45			○	●		○	◎	○	
		46			○	●		○	◎	○	
		47		○	◎	●		○	○	○	
		48		○	○	◎		●	○	○	
		49		○	●	◎		○	○		○
		50				○		●	◎	○	
		51		○	◎	●		○	○	○	
		52			◎	●		○	○	○	
	1879 (3曲)	53		○	◎	●		○	○		
		54			●	◎		○	○	○	
		55		○	●	◎		○	○	○	
		56			○	◎		●	○		

第 3 期	1880 (6曲)	57		○	◎	●				○	
		58			◎	●		○	○		
		59		◎	●	○		○	○		
		60			◎	●		○			
		61				◎		○	●		
		62		○	●	◎		○	○	○	
	1882 (4曲)	63		○	●	◎		○	○		
		64		●		◎					
		65		○	◎	●		○	○		
		66				◎		○	●	●	
	1883 (9曲)	67		○	●	◎		○	○	○	
		68		○	◎	●		○	○		
		69		●	◎	○					
		70		○	◎	●		○	○		
		71			●	◎		○	○		
		72			◎	●		○	○		
		73				◎		○	●		
		74			●	◎			○	○	
		75			●	◎		○	○	○	
		76				◎		○	●	○	
第 4 期	1884 (1曲)	77			◎		○	●	○	○	
	1886 (3曲)	78		○	◎	○		○	●	○	
		79			○	◎		○	●		
		80			○	○		○	●	◎	○
	1887 (8曲)	81			○	◎			○		
		82				○		○	●	◎	○
		83			◎	◎		○	○	○	
		84			●	◎		○	○		
		85		○	◎	●		○	○	○	
		86	○	○	○	●		○	○	◎	
1888 (2曲)	87		○	◎	●		○				
	88			○	◎		○	●	○		
	89			○	◎		○	●			

この表から、まず、1875-76年は、指示の無い曲や、部分的な指示に留まる曲が多く、記号においては **mp**、**mf** は使われていないことが読み取れる。その後、1877-78年になると、全曲にダイナミクスの指示があり、**mf** も使われるようになった。また、全体的には **p** が中心だが、**pp** と同様に、**f** の使用も、かなり多く観察されている。更に、79-83年では、全体のダイナミクスの中心が、**p** と **pp** に集中し始めている。しかし、**fff** の使用はなくなり、強の幅は、若干狭くなっている。そして、1884-88年までは、再び中心となるダイナミクスにばらつきが見られ、**ff** が主な強弱となっている曲もある。また、記号の幅が広がり、再び **fff**

が用いられるようになったと同時に、86番では、pppp が、初めて用いられるのである。

以上から、ダイナミクスに関しては、まず、1875-76年を第1期とし、続く77-78年の第2期では、様々な記号が曲の中心とされている。そして、p や pp を中心とした79-83年の第3期、非常に多くの記号が試される84-88年の第4期と分類することが可能である。

3.4 分析的考察のまとめ

以上の歌唱旋律の動き、調性構造、ピアノ・パートのダイナミクスの分析により、ヴォルフの初期歌曲群は、各要素別に四期に分けられる。ダイナミクスの要素に関しては、第1期から第3期までの創作傾向の分類に、それぞれ一年のズレが見られるが、ここでは四期に分かれることを重視し、【表9】に各要素ごとに特徴をまとめて示す。

【表9】各要素の特徴と創作傾向による分類

区分	要素 年代 (曲数)	歌唱旋律	ハーモニー	ダイナミクス
第1期	1875〔4曲〕	・特徴的な歌唱旋律が少ない	・一つの調が、近辺の音を主音とした調に、転調する傾向	・強弱の指示がなされていない
	1876〔14曲〕			・強弱の指示が安定 ・pが中心の強弱 「にも重点
	1877〔7曲〕			
第2期	1878〔27曲〕	・同音反復の要素	・調性の交替による転調が現れる	・pとppの安定した使用
	1879〔3曲〕			
第3期	1880〔6曲〕	・特徴的な歌唱旋律の減少	・一度調の使用が皆無 ・二種類の転調手法が、平均的に用いられる	
	1881〔1曲〕			
	1882〔4曲〕			
	1883〔9曲〕			
第4期	1884〔1曲〕	・特徴的な歌唱旋律の多用	・調性の交替による転調が無くなる	・強弱記号の使用の範囲が広がる ・中心となる強弱のばらつき
	1886〔3曲〕			
	1887〔8曲〕			
	1888〔2曲〕			

まず、第1期においては、歌唱旋律に《メーリケ歌曲集》的な特徴はあまり見られず、ダイナミクスにも、指示そのものがされていない曲や部分が多いため、この2つの要素からは、かなり習作的な色合いが濃い時期である、と言えよう。しかし、調性構造に関しては既に、一つの調が、近辺の音を主音とした調に転調する傾向があり、この時点で既に、《メーリケ歌曲集》の音楽的特徴が見いだされると言えよう。

第2期は、歌唱旋律においては、《メーリケ歌曲集》における最大の特徴である、同音反復の要素が濃く全面に出る形となっている。また、調性構造においては、調性の交替という特徴が現れ、更にダイナミクスでは、指示が安定し始め、mf も指示されるという変化が起きている。しかし、ダイナミクスとしては全体的に p が中心であるにも関わらず、f にも重点の置かれた作曲がなされている。この時期は、全体的に《メーリケ歌曲集》的な音楽的特徴が、様々な形態で現れているのである。

第3期は、再び、特徴的な歌唱旋律の使用が減っている。そのため、歌唱旋律においては、一時第1期の状態に後退した感があるが、他の二つの要素に関しては、異なる新たな発展が見られる。まず、調性構造においては、曲を通じて1度調の作品がこの時期以降、全く見られなくなる一方、特徴的な2つの型の転調構造が、両者とも平均的に用いられているのである。また、ダイナミクスにおいては、p と pp の安定した利用が観察されるようになった。つまり、この時期は、歌唱旋律に関しては、試行錯誤的な取扱いがなされているが、他の二つの要素は、《メーリケ歌曲集》的な音楽的特徴が明らかである。

第4期には、再び特徴的な歌唱旋律が多く見られるようになった。歌唱旋律に関するこの変化は、第3期で様々な旋律を試した結果として、彼独自の旋律構造が安定したためと考えられる。しかし、調性構造は、

第3期に《メーリケ歌曲集》の状態に近づいたにも関わらず、再び第1期と同様に、2つの調性の交替による転調手法は使われなくなった。また、ダイナミクスに関しては、用いられている記号の範囲が広がったが、逆に中心的な記号に関しては、ばらつきが見られる形となった。そのため、第4期では、第3期に対して、調性構造とダイナミクスにおいて、試行錯誤的な取扱いがなされているとも、考えられる。

4. 結論

本研究は、集中的な作曲活動期の最初の歌曲集である《メーリケ歌曲集》に観察される音楽的特徴が、ヴォルフの初期歌曲群の中にどのように存在するのかについて考察することを目的とした。

考察の結果、まず、《メーリケ歌曲集》における音楽的特徴が、ヴォルフの初期歌曲群に、既に出現していることが明らかとなった。現れ方としては、まず調性構造に、その後、歌唱旋律とダイナミクスに見いだされるという形を取っている。

また、初期歌曲群は、その創作傾向により、上記の3つの要素を四期に分類することが可能である。しかし、これらの音楽的特徴は、必ずしも《メーリケ歌曲集》に向けて、年代的に着実かつ、段階的な変化を遂げているわけではない。つまり、要素別に《メーリケ歌曲集》的な特徴が濃い部分と薄い部分があることから、全体としては、それぞれの分類において、要素ごとに、多様な試みを行っていると言えよう。

註

- 1)本稿は、1997年10月5日、日本音楽学会第48回全国大会（於：大阪芸術大学）における筆者の口頭発表に基づくものである。
- 2)点線（…）は、年の区分を示す。また、邦題は、サムズ 1994による（【表2】も同様）。
- 3) mm.とその後の数字は、小節数を示す。
- 4) 点線（…）は年の区分を、細線（—）は創作傾向による分類を表す（【表6】、【表8】、【表9】も同様）。
- 5) 和音記号は、島岡 1983による（【図2】も同様）。
- 6) 曲数の後の数字は【表1】、【表2】の番号を示す（【表6】も同様）。
- 7)pppp～fff の表示は、全て強弱記号を表すものである（本文、【表8】、【表9】も同様）。

引用・参考文献、使用楽譜（著者アルファベット順）

EGGER, Rita 1963 *Die Deklamationsrhythmik Hugo Wolfs in historischer Sicht.* (Tutzing: Hans Schneider)

ラルー、ヤン／大宮、眞琴 1988 『スタイル・アナリシス 総合的様式分析—方法と範例』全2巻（東京：音楽之友社）

McKINNEY, Timothy Richmon 1989 *Harmony in the songs of Hugo Wolf.* (Ph.D.Dissertation, University of North Texas.) Order No.DA9005344

OSSENKOP, David 1988 *Hugo Wolf. A guide to reserch.* (New York: Garland Publishing,Inc.)

SAMS, Eric 1980 "Wolf, Hugo (Filipp Jakob)". in SADIE, Stanley;a.o.(ed.) *The new Grove dictionary of music and musicians.* 20: 475-502. (London: Macmillan Publishers Limited)

サムズ, エリック 1994 (日本語訳)「ヴォルフ, フーゴ (フィリップ・ヤーコプ)」井形ちづる (訳)『ニューグローブ世界音楽大事典』柴田南雄; 遠山一行 (編) 第3巻: 48-71. (東京: 講談社)

島岡, 譲 1983 『音楽の理論と実習 II』(東京: 音楽之友社)

梅林, 郁子 1995 「フーゴ・ヴォルフ作曲『メーリケ歌曲集』研究
一朗唱の歌唱旋律とピアノ・パートの関わりー」(修士論文, お茶の水女子大学)

WOLF, Hugo Phillip Jakob *Hugo Wolf. Sämtliche Werke. in Internationalen
Hugo Wolf-Gesellschaft (Hrsg.) (Wien: Musikwissenschaftlicher Verlag)*

1963 Band 1. *Gedichte von Eduard Mörike für eine Singstimme und
Klavier.*

1981 Band 6. *Lieder nach verschiedenen Dichtern.*

1980 Band 7/1. *Nachgelassene Lieder I.*

1969 Band 7/2. *Nachgelassene Lieder II.*

1976 Band 7/3. *Nachgelassene Lieder III.*

うめばやし いくこ (人間文化研究科在学中)

国立音楽大学器楽学科(ピアノ)卒業。お茶の水女子大学大学院人文科学研究科(演奏学・ピアノ)修士課程修了。同大学院人間文化研究科博士課程在学中。論文:「フーゴ・ヴォルフ作曲『メーリケ歌曲集』研究」(平成6年度修士論文)、「ヴォルフ作曲《シェップエル・メーリケ・ゲーテ・ケルナーの6つの詩による歌曲集》における連作性について」(『人間文化研究年報』、第20号: 229-237)。